

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後ルームBAMBOOHAT上柴東		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 25日		～ 令和7年 12月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 25日		～ 令和7年 12月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年 11月 25日		～ 令和7年 12月 12日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	5施設	(回答数) 5施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	強みは、訪問先において対象児童の行動や表情、周囲との関わり方などを多角的に丁寧に観察し、普段の支援場面では見えにくい特性や変化を的確に捉えているところ	学校からのご意見を受け、訪問支援における関わり方や配慮の在り方について見直しを行っている。訪問時は、授業や指導の妨げとならないよう観察を中心とし、必要な情報共有や助言については、時間帯や方法を十分に検討したうえで行います。 また事前に学校側の状況や要望を確認し、児童が安心して過ごせる環境を優先した支援となるよう心がけています。今後も学校との連携をより丁寧にいき、相互理解を深めながら配慮の行き届いた訪問支援の実施に努めていきます。	訪問先施設、担任の先生と、訪問時以外にも定期的なやり取りができるような仕組みを整え、情報を共有し、ご相談を受けたり支援の提案を行いながら継続的な支援ができるよう取り組んでいます。
2	児童の安心感や過ごしやすさを重視し、無理のない支援や関わり方を意識している点が強みである。児童一人ひとりの特性や状態に応じた支援を検討し、成長を長期的に見守る姿勢を大切にしている	訪問時には児童が安心して普段どおり過ごせるよう関わり方や環境の配慮を意識しているが学校からの指摘を受け、時には普段と違う緊張や負担が児童に生じることがあることを認識しています。今後は、学校の状況や学級の実態を事前により丁寧に確認し児童が落ち着いて過ごせる環境を最優先に観察します。また必要な情報共有や助言は学校や保護者に負担をかけない方法・タイミングで行うよう工夫し児童の安心感と日常性を保ちながら支援が行えるよう努めていきます。	学校からのご意見を踏まえ、訪問前に学校の状況や学級の実態、児童の特性を事前に確認する体制をさらに強化します。訪問時には、児童が安心して普段どおり過ごせる環境を最優先とし、観察を中心に関わり方を調整します。また、情報共有や助言は学校・保護者の負担にならない方法・タイミングで行い、児童の落ち着きや日常性を損なわず、効果的な支援につなげていきます。今後も、学校との連携を深めながら、支援の質と充実度の向上に努めていきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定期的、継続的な訪問支援ができていない	現在、訪問の計画や優先順位の設定、職員の業務配分や記録整理の方法について改善の余地があることが課題として挙げられます。これらを見直すことで、訪問の定期的性や継続性を高め、より安定した支援を提供できると考えている。今後は、計画立案や準備・記録の方法を工夫し、継続的で質の高い訪問支援の実現につなげていきます。	訪問の定期的・継続性を確保するため、訪問計画の立て方や優先順位の設定方法を見直します。職員間での業務調整や役割分担を工夫し、準備や記録整理にかかる時間を効率化することで、継続的かつ安定した支援を提供できるよう取り組みます。また、児童の安心感や普段通りの生活を最優先に配慮しつつ、学校や保護者への助言や情報共有のタイミング・方法も工夫し負担を最小限にする支援を目指します。
2	学校生活(集団生活)にあったアドバイスが十分でない	訪問時の助言が十分に行き届かない要因として学校の授業や学級運営で先生方が多忙な場面に必要な質問や確認を行ってしまったことがあると考えられます。また、児童の安心感や普段の生活を優先するあまり助言のタイミングや方法が限定される場面もありました。今後は、学校の状況や先生方の負担を考慮し、助言や質問は事前・事後の書面や下校時など適切なタイミングで行うよう工夫し、実践的かつ円滑な支援につなげていきます。	今後は、学校や学級の状況、児童の特性を事前に十分確認したうえで、訪問の計画や関わり方を工夫する必要があります。また、児童が安心して過ごせる環境を最優先に観察を中心とした支援を徹底し学校や保護者への助言や質問は、授業や学級運営に支障のないタイミング(事前・事後の書面や下校時等)で行います。さらに訪問内容や観察結果の記録・整理を充実させ支援の継続性や一貫性を確保できるよう取り組むことが重要と考えております。
3			